



山形大学

山形大学 行動計画

令和4年度

山形大学の社会に対するお約束



山形大学長
玉手 英利

山形大学は1949年の創設以来、不断の自己改革によって時代の波を乗り越え、教育・研究・地域貢献で多くの成果をあげ、10万人を超える有為な人材を世に送り出してきました。現在では、6学部・6研究科を擁する東北地方有数の総合大学として、山形県内に4つのキャンパスを有し、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」の3つの使命のもとで、それぞれの地域の歴史、文化、自然環境、産業の多様性に根ざした学術活動を展開しています。

いま、社会が急速に変化する予測不能で不確実な時代を迎えて、山形大学は明るい未来を切り拓く新たな知・新たな価値を生み出すために、社会の様々な壁をこえて、人と人、異なる知と知を“つなぐちから”となることを「山形大学将来ビジョン」に掲げました。その実現に向けて、今年度から始まる国立大学法人第4期中期目標期間では、「持続可能な幸福社会の実現」を基本目標として定め、SDGsの達成に貢献する教育、研究及び社会との共創を推進してまいります。その端緒となる令和4年度は、「つなぐちから」の第一歩として、地域の教育機関、自治体、産業界、医療界と一体となって地域創生に取り組むプラットフォームを形成し、社会で活躍する様々な人々・組織との共育・共創・共生を進めます。

「山形大学行動計画」は、山形大学に対する社会の皆様からの期待と信頼に応えるために、毎年度、山形大学が社会に対してお示しする約束です。私たちの願いは、山形大学が、社会から頼られ、学生から深く愛される大学として、社会と共に発展し続けることです。パンデミックと国際的な紛争が続く世界でも揺るぐことなく、大学の使命を果たすために全力で取り組んでまいります。今後とも本学へのご理解とご支援を宜しくお願いいたします。



目次

令和4年度行動計画の発行にあたって	3
-------------------------	---

理事・副学長の業務所掌及び基本方針	5
-------------------------	---

教育の行動計画	7
---------------	---

研究の行動計画	11
---------------	----

社会共創の行動計画	12
-----------------	----

経営の行動計画	14
---------------	----

令和4年度行動計画の発行にあたって

—山形大学将来ビジョンを指針に加え、新たな中期目標期間のスタート—

国立大学は、令和4年度から第4期中期目標期間を迎えます。それを受け、山形大学では、文部科学省の大綱に沿い、第4期中期目標・中期計画を策定しました。

(第4期中期目標期間：令和4年度～令和9年度の6年間。)

時を同じくして、山形大学では「山形大学将来ビジョン」を策定しました。これは、新型コロナウイルス感染症の流行、超高齢化社会の到来、自然災害の多発化、グローバル化の進展、デジタル技術やAI技術の発展など、社会が目まぐるしく変化していく中、いかなる状況においても、山形大学が活動を行う上で常に念頭に置く指針をまとめたものです。

山形大学はこれまで、3つの使命、5つの基本理念の下、中期目標・中期計画はもちろんのこと、それ以外にも国際交流、DX推進等について独自に計画を策定し、積極的に活動を行ってまいりました。令和4年度からは、「山形大学将来ビジョン」を本学の大きな指針に加え、決意を新たに、地域の発展、そして社会の発展のために邁進する所存です。

本誌は、令和4年度に本学が行う教育研究活動等の具体的な計画を、教育、研究、社会共創、経営の観点からまとめたものです。計画は、中期目標・中期計画に基づくもののほか、本学が独自に策定した計画も含め掲載しております。なお、これらの計画に対する実績は、統合報告書において公表する予定です。

◆行動計画と使命、基本理念、将来ビジョン、第4期中期目標・中期計画等との関係図



◆第4期中期目標・中期計画の概要

法人の基本的な目標

SDGsの達成に貢献する教育、研究及び社会との共創を推進し、持続可能な‘幸福社会’の実現を目指す

教育

幸福な社会を実現する
人材育成

- ①数理・データサイエンス・AI教育を全学生に提供
- ②社会のニーズに応じた文理横断教育プログラム導入

医療

高度医療の推進と
地域連携に基づく
充実した医療体制の構築

- ①重粒子線がん治療の推進
- ②地域と連携した医療人養成

社会との共創

地域の創生を加速する
社会との共創の場の構築

- ①山形県内の大学、地方公共団体、産業界、医療界等が一体となって恒常的に議論するために「地域連携プラットフォーム」を早期に設置

国が「ガイドライン」策定

各地域において地域連携プラットフォームの構築や議論を行う際の参考に資するものとする。

課題解決のために実行する事項

- ✓地域課題解決型プロジェクトの実施
- ✓人材育成、産業振興、イノベーション創出
- ✓大学進学率や域内定着率の向上 等

議論することが考えられる事項

- ✓プラットフォームの目標、方向性
- ✓行動計画、地域課題の解決策
- ✓地域の高等教育のグランドデザイン 等

地域の現状・課題等の共有

- ✓地域社会のビジョン等
- ✓地域の高等教育の果たす役割
- ✓人口動態、地域社会・産業構造
- ✓将来予測 等

地域連携プラットフォーム



組織的関与
(トップ・ミドル層、キーパーソンが参画)

研究

持続的な発展と
新たな知の創造に
貢献する学術の推進

- ①有機材料等プロジェクト研究への重点支援継続
- ②教員の卓越性、多様性の強化

経営

持続的に発展する経営体
としての自己変革

- ①経営の一層の可視化
- ②ステークホルダーとの対話促進

◆第4期中期計画 主な事項

社会との共創

【1-1】山形大学がリードする社会共創

- ✦高等教育機関との連携推進、大学コンソーシアムやまがた等の機能高度化
- ✦山形県内大学、地方自治体、産業界、医療界等が一体となった地域連携プラットフォームの設置

評価指標	地域連携プラットフォームを設置し、参加機関による議論に基づき新たに実施する事業件数 6件
------	--

【1-2】地域社会を活性化する多様な人材の育成

- ✦多様な人々を対象とした地域の人材育成

評価指標	小中高生対象の教育プログラム開講数 140件／年
------	--------------------------

【1-3】地域価値創出の中核となる事業の推進

- ✦地域資源の価値化につながる連携事業実施

評価指標	地方自治体等との連携事業 実施自治体数23件
------	------------------------

教育

【2-1】知識集約型社会の新たな「学び」を推進する教育改革

- ✦基盤共通教育の再構築、文理横断的な教育プログラムの導入
- ✦数理・データサイエンス・AI教育を全学的に展開

評価指標	数理・データサイエンス・AI教育の必修化・学部専門教育での展開
------	---------------------------------

【4-1】教育プログラムの見直し

- ✦理工学研究科を分野融合型教育研究組織に再編
- ✦医学系研究科及び有機材料システム研究科の教育プログラム改善

評価指標	博士課程・博士後期課程における教育プログラムの検証結果を踏まえた改善状況
------	--------------------------------------

【10-2】地域における先導的な教育モデルの開発

- ✦附属学校園について、地域におけるモデル校としての役割を果たしつつ、その成果を地域に還元

評価指標	4つの新たな教育モデル（ICT活用教育、インクルーシブ教育、英語教育、SDGsの推進）の開発・展開状況
------	---

研究

【8-1】自律的な研究の推進

- ✦独創的な研究、特色ある研究を支援

評価指標	著書・論文数 980編(冊)
------	----------------

【8-2】先端的研究を目指した組織化の推進

- ✦世界をリードする研究への重点支援を継続するとともに、SDGsの達成に貢献する研究拠点の形成を支援

評価指標	YU-COE(山形大学先進的研究拠点)における外部資金獲得額 8.8億円
------	--------------------------------------

医療

【11-1】高度先進医療の提供

- ✦重粒子線治療等の推進及び山形県コホート研究等の発展拡大によるオーダーメイド型医療の推進

評価指標	重粒子線治療患者数 600人／年
------	------------------

【11-2】地域と連携した医療人の養成

- ✦山形県及び地域の医療機関と連携し、地域の中核を担う医療人を養成
- ✦地域と連携した医師の適正配置及び医療技術革新の社会実装等

評価指標	山形県内医療機関勤務医における山形大学出身者割合65%以上及び山形県内開業医の山形大学出身者割合6%増
------	---

経営

【15-1】自己点検・評価の法人経営への活用

- ✦自己点検・評価の結果を教育、研究、大学経営に反映し、状況を公開

評価指標	全ての学部・研究科で第三者評価又は外部評価を実施
------	--------------------------

【15-2】ステークホルダーとの対話の推進

- ✦ステークホルダーから意見を聴取、反映する仕組みを構築

評価指標	ステークホルダーから広く意見を聴取する仕組みを10種類以上構築及び聴取した意見を反映した新たな取組件数 10件
------	---

【16-3】真に働きやすい大学の実現

- ✦働く時間、場所を自由に選択できる環境の整備とワークライフバランスの推進により、真に働きやすい大学を実現

評価指標	テレワーク実施率事務部 30%、年休取得日数 全教職員10日以上
------	----------------------------------

詳細はこちら▶

山形大学将来ビジョン



第4期中期目標・中期計画



理事・副学長の業務所掌及び基本方針



研究／産学連携 担当

理事・副学長 飯塚 博

社会を豊かにする研究が活発に展開されることを目指して、研究者が安心して研究に取り組める環境を整備するとともに魅力的な研究を組織的に支援し、得られた成果を発信・社会実装につなげます。また、その活発な研究活動の場が、次代を担う学生や若手研究者さらには社会とつながる交流の場となるよう、活動支援していきます。



教育／入学試験 担当

理事・副学長 出口 毅

主体的で実践的な学びを中核に据えた教育を通じて、幸福な社会のあるべき姿を自ら描いて社会変革を牽引する人材の育成を目指します。求める人材像にふさわしい教育と入試を実現するために、今年度、学士課程教育の改革について議論を深め、実施に向けた教育内容等の充実や学修成果の質保証に資する取組を推進します。



学生支援／学術基盤／広報 担当

理事・副学長 矢作 清

学生一人ひとりが心身ともに健康で充実した学生生活を送るために、学生のニーズに合った生活、経済、課外活動の総合的な学生支援を行います。生活支援では、各キャンパスの学生相談体制の強化、経済支援では、就学に専念できるよう新たな奨学金等の整備、課外活動支援では、各サークルへ活動支援のほか、特にチャレンジ精神を持って学生自ら積極的に行う活動への支援を行います。



病院／財務 担当

理事・副学長 根本 建二

病院では、最先端医療のゲノム医療に加え、ロボット手術や回転ガントリーを用いた重粒子線治療等の低侵襲個別化医療を推進するとともに安定した経営を実現します。財務関係では、情報の見える化、効率化に取り組むとともに、適正管理室の活動を実質化し、研究費の適正使用管理に向けた各種施策を実施します。



企画／評価・IR／総務／危機管理／内部統制 担当

理事・副学長 花輪 公雄

第4期中期目標・中期計画や将来ビジョンに基づく施策等の着実な進展のため、環境を整備するとともに適切な点検・評価を行います。また、教育力や研究力の向上、学生への支援の充実に向け、支援組織の整理・統合（機構化）を進めます。さらに、健全な大学運営のために適切な統治と管理を行うとともに、教職員の法令遵守の精神を醸成します。



施設 担当

理 事 瀬瀬 晃

地域や各種組織の方々が「コモンズ」として活用しやすい空間の再整備を念頭に、安全・安心で環境負荷の少ない施設整備を行います。また、各キャンパスのトリアージを進め、中長期的な視点でのキャンパス運営が出来るように取り組んでいきます。



国際交流 担当

副 学 長 林田 光祐

学内外の連携を強化して国際化を進め、新型コロナウイルス感染状況に応じた多様な交流の機会をつくることで、多文化共生社会をリードする人材を育成します。また、一人ひとりがSDGsを自分ごととして行動することをempower!し、地域のカーボンニュートラルの実現を推進します。



社会共創 担当

副 学 長 大森 桂

地域の人々や組織と“つながる”「共創の場」を設置し、「頼れる知のパートナー」として、地域の課題解決や新たな価値の創造に協働して挑み、持続可能で幸福な社会の実現を牽引する大学を目指します。また、これまで整備してきた男女共同参画の基盤を更に機能的・全学的に発展させ、多様な人材が生き生きと活躍できる環境づくりを進めます。



人事・労務 担当

副 学 長 羽鳥 政男

DXを含め、業務の一層の見直しを実施することにより、すべての教職員が、結婚、出産、育児等のライフイベントに応じて、働く時間、働く場所等を自由に選択できる環境を整備するとともにワークライフバランスを推進します。また、教育研究の向上、組織の活性化を図るとともに、ハラスメントのないキャンパスを作ること等により、真に働きやすい大学を目指します。

教育の行動計画

〈ビジョン〉

山形大学は、地域・社会の「コモンズ」として、学生と地域の人々をつなぎ、多様な「共育」環境を生み出しながら、学生が自分の成長を実感できる学びを提供していきます。社会のいかなる変化にも対応できる「深く考え実行する力」と「果敢に挑戦する心」を持ち、他者と力を合わせて持続可能な幸福社会を創りあげる人材を育てます。

No.1 【学士課程】知識集約型社会の新たな「学び」を推進する教育改革(第4期中期計画2-1)

出口理事

- ◎基盤共通教育について、令和5年度からの教育改革に向け、これまでの検証結果を踏まえた基本方針を策定します。
- ◎文理横断的な教育プログラムの導入に向けた具体的な計画を策定します。
- ◎数理・データサイエンス・AI教育を全学的に展開させるための具体的な計画を策定します。

No.2 【学士課程】教学マネジメントの充実(第4期中期計画2-2)

出口理事

- ◎教育の内部質保証を実質化するため、カリキュラム・チェックリスト及び「基盤力テスト」の結果に基づくプログラム・レビューを実施します。
- ◎基盤教育評価改善報告書を作成・公表し、基盤教育の更なる充実を図ります。
- ◎デジタル技術を有効活用した教材作成や授業方法等に係るFD(Faculty Development)を全学的に実施し、ポスト・コロナに対応した教育内容や方法の普及に取り組みます。

評価指標	R4年度 達成目標
基盤力テスト・IR(Institutional Research)データを使用した教育プログラムの改善数	1件
カリキュラム・チェックリストの指摘事項に対する改善率	100%
全学又は学部等で開催するFDへの教員の参加率	65%

No.3 【入学者選抜】入学者選抜方法の改善と戦略的な入試広報の推進(アドミッション・ポリシーに沿った適正な入学者確保のための独自の計画)

出口理事

- ◎令和7年度入試に向けて、教育改革と連動する入試改革と広報戦略の具体的な計画を策定します。

No.4 【修士課程】改組の効果検証に基づく教育プログラムの改善(第4期中期計画3-1)

出口理事

- ◎大学院共通科目(基盤教育科目及び基礎専門科目)及び令和3年度に再編した社会文化創造研究科、理工学研究科及び農学研究科において令和5年度以降の教育課程の改善を行うために教育プログラムのレビューを行います。
- ◎学士課程で実施している「基盤力テスト」のノウハウ等を活用し、修士課程・博士前期課程における学修成果を可視化するための手法等の研究開発に取り組みます。

評価指標	R4年度 達成目標
必修科目である基盤教育科目の受講者からの評価	「満足度」5段階中4以上
修士課程・博士前期課程における教育プログラムの検証結果を踏まえた改善状況(カリキュラム・チェックリストの指摘事項に対する改善率)	改善率 100%

No.5

【修士課程】高度専門人材育成課程での実践的能力養成のための取組(第4期中期計画3-2)

出口理事

- ◎新型コロナウイルス感染症流行の経験を踏まえ、先進的医科学専攻に感染症学教育プログラムを開設します。また、感染症看護を専門としたコースの設置(看護学専攻)及び地域リハビリテーションを専門としたコース設置(先進的医科学専攻)の検討、準備を行います。
- ◎教育実践研究科と山形県教育委員会との連携強化に向けた計画を策定します。また、教育実践研究科学生の指導力・実践力・応用力の育成のため、各学生の資質・能力を踏まえて、地域・学生のニーズに応じた段階的な学生指導を行います。

評価指標	R4年度 達成目標
教育実践研究科就職率	100%

No.6

【博士課程】教育プログラムの見直し(第4期中期計画4-1)

出口理事

- ◎令和5年度に理工学研究科を改組し、分野融合型の教育研究組織に再編するための計画を策定、実行します。
- ◎全研究科の博士課程・博士後期課程において、カリキュラム・チェックリストに基づくチェック等を実施し、結果を踏まえた教育改善を行います。

評価指標	R4年度 達成目標
博士課程・博士後期課程における教育プログラムの検証結果を踏まえた改善状況(カリキュラム・チェックリストの指摘事項に対しての改善率)	改善率 100%

No.7

【博士課程】産業界等と連携したキャリア支援(第4期中期計画4-2)

出口理事

- ◎博士課程・博士後期課程の学生を対象とした、包括的な経済支援計画を策定するとともに、支援事業を実施します。
- ◎産業界と連携したインターンシップの推進、プレFDの実施等、博士課程・博士後期課程の学生を対象とした組織的なキャリア支援計画を策定し、実行します。

評価指標	R4年度 達成目標
就職希望者における就職率	100%
全対象学生へのキャリア形成支援事業・経済的支援	対象学生の50%

No.8

医師・看護師養成課程の高度化(第4期中期計画5-1)

出口理事

- ◎医学分野において中核となって活躍できる人材を養成するためのYamagata University faculty of Medicine Advanced Innovation Center (YU-MAIセンター)の開設準備をはじめます。
- ◎感染症禍においても持続可能な教育を実践するために、以下の計画を策定します。
- ・教育機器、シミュレーター及びICT環境等の整備に関する計画
 - ・オンラインを活用した教育プログラム及び教育手法・コンテンツ開発等に関する計画

No.9 教職課程の質保証(第4期中期計画5-2)**出口理事**

- ◎教育分野において中核となって活躍できる人材を養成するために、ICT活用指導力の向上を目指した教育プログラムの実施計画を策定します。
- ◎教職課程の質向上のために、教職課程カリキュラムに関する自己点検・評価・改善のPDCAサイクルを実施します。
- ◎教員養成機能の向上のために、学部間・大学間の教育連携実施計画を策定し、教育連携を推進します。

評価指標	R4年度 達成目標
課題認定を受けている学科(コース)における自己点検・評価実施率	100%

No.10 学生のグローバル交流拡大(第4期中期計画6-1)**林田副学長**

- ◎本学独自の「学生大使」、短期海外研修プログラム、海外インターンシップ、海外の大学とのオンラインプログラムの他、国際学会での発表、留学生のチューター業務等、新型コロナウイルス感染症の状況にも対応した多様なグローバル体験プログラムを計画・実施します。
- ◎SDGs推進に貢献するため、海外の大学と締結する国際交流協定にSDGsを共に推進する旨盛り込むとともに、既に交流協定を締結している大学との協定内容についても見直し・更新を行います。

評価指標	R4年度 達成目標
多様なグローバル体験プログラムの構築と学生の参加率	7%
SDGsを共に推進する大学間・学部間交流協定の締結率	21%

No.11 多様な留学生の受入れ体制の充実(第4期中期計画6-2)**林田副学長**

- ◎ダブルディグリー・プログラム等の国際教育プログラムを実施するとともに、新たなプログラムの設置について検討を進めます。
- ◎留学生交流プラットフォームを立ち上げ、卒業後も継続的に交流・連携する体制を整備することにより、在学中の支援強化とさらなる留学生の呼び込みにつなげます。

評価指標	R4年度 達成目標
国際教育プログラムの実施及びそのプログラムへの参加者数	プログラム実施 1件 参加者数 3人
留学生交流プラットフォームへの参加率	10%

No.12 地域の発展を担うグローバル人材の育成(産官学の新たな連携により)(人材育成のための独自の計画)**林田副学長**

- ◎地域の行政(団体)及び県内企業との連携により、地域の発展を担うグローバル人材(学生、社会人)を育成します。

評価指標	R4年度 達成目標
事業への参加者数(日本人学生、留学生、社会人)	80人
地域課題を踏まえた新たな企画の策定	2件

No.13 国際化戦略に係る基本方針の策定(将来ビジョン具体化等に関する独自の計画)**林田副学長**

- ◎山形大学将来ビジョン及び第4期中期目標・中期計画を踏まえた、国際化戦略に係る基本方針を策定し、取り組むべき課題とその方向性を明確にします。

No.14 多様な個性を持つ学生に対する理解を高める取組(第4期中期計画7-1)**矢作理事**

- ◎多様性への理解を促進するための授業科目について、現状の開講科目を調査し、令和5年度以降の開講科目数の増加に向けた取組を実施します。
- ◎YUハートサポート制度(障がい学生を学生スタッフが支援する制度)を充実させるため、現状調査を行い、その結果に基づいた新たな制度設計を行います。
- ◎安全・安心・ハンディのない学習環境を整備するため、現状の学内設備を調査した上、整備計画の策定を開始します。また、全学部生を対象とした安心・安全のための心肺蘇生講習を実施します。

評価指標	R4年度 達成目標
YUハートサポーター登録者	60人

No.15 学生の立場に立ったサポート体制の充実(第4期中期計画7-2)**矢作理事**

- ◎学生の実態及びニーズ調査を行い、その結果に基づいた学生に対する新たな生活支援策を実施します。また、各キャンパスからの要望及び学生との意見交換会における学生からの意見を反映した環境整備に関する取組を行います。
- ◎企業や自治体等と連携したインターンシップを実施するとともに、インターンシップの拡充を図るため、個別のインターンシップの実態調査及び一般企業からのインターンシップ受付システムの設計を行います。
- ◎保護者会、同窓会、企業等に対して本学の取組に関する情報提供、アンケート調査等を行い、ステークホルダーの意見を反映させた、新たな連携に関する計画を策定します。

評価指標	R4年度 達成目標
新たな生活支援策の創設	1件
学生の意見を反映した環境整備の取組件数	10件
インターンシップ参加者	200人

No.16 学生が主体的に行うプロジェクトへの支援(学生支援に関する独自の計画)**矢作理事**

- ◎学生生活の活性化・充実化を目的として、学生の創造性・自主性・積極性を高め、大学や地域との関わりを深める魅力的な活動を支援します。

No.17 【附属学校】実践的な実習・研修の場の提供(第4期中期計画10-1)**出口理事**

- ◎山形県と山形大学が共同で作成した「山形県教員『指標』」に基づき、実践的な実習を行うための「教育実習プログラム」を作成します。また、教育実習に参加した学生がそのプログラムを評価することで、プログラムの改善を図ります。
- ◎探究的な学びの学習過程におけるICTの効果的な活用を促進するため、山形大学教員・山形大学附属学校教員共同の研究チームを発足し、公開研究会等を行います。

評価指標	R4年度 達成目標
公開授業において、「探究的な学びの学習過程におけるICTの効果的な活用を図った授業」の提案数の全公開授業に占める割合	25%
実習参加の学生が「教師になる意欲が高まった」「大学での学習意欲が高まった」と回答する割合及び研修会参加教員が「提案授業を参考にした実践意欲が高まった」「提案授業を参考にした実践意欲が少し高まった」と評価する割合	共に80%

No.18 【附属学校】地域における先導的な教育モデルの開発(第4期中期計画10-2)**出口理事**

- ◎SDGsの視点を踏まえたカリキュラムの作成及びインクルーシブ教育や英語教育の発展に向け、山形大学教員・山形大学附属学校教員共同の研究チームを発足し、学習プログラムやカリキュラムに関する研究を行います。
- ◎山形大学の附属学校園(幼稚園、小・中学校、特別支援学校)が一体となったコミュニティ・スクールの導入に向け、先行事例の研究等を開始します。
- ◎学校重点目標具現化のグランドデザインに基づく学校運営を効率的に進めていくため、学校運営の評価システムを構築します。

研究の行動計画

〈ビジョン〉

山形大学は「コモンズ」でつながる膨大な知から、夢に満ちた研究を長期的視野で醸成し、その研究の発展からイノベーションを創出するライフサイクルを構築します。幸福社会を実現するための幸せの素となる知を、あらゆる角度から総合的に創出します。

No.19 自律的な研究の推進(第4期中期計画8-1)

飯塚理事

- ◎教員の学術研究の卓越性と多様性を強化するために、各キャンパスと連携し、研究力強化のための総合支援パッケージにおいて大型研究費にチャレンジする意欲の高い研究者向けの集中的支援、多様で長期的な研究への支援を企画・実施します。
- ◎特色ある研究テーマを推進する若手研究者に対する支援のために、研究力強化のための総合支援パッケージにおいて科学研究費補助金等の獲得に向けた集中的支援を企画・実施します。

評価指標	R4年度 達成目標
著書・論文数	930編(冊)
若手研究者の競争的研究費新規採択件数	37件

No.20 先端的研究を目指した組織化の推進(第4期中期計画8-2)

飯塚理事

- ◎SDGsの達成に貢献する研究拠点の形成を支援し、世界的に優れた研究成果を創出するために、YU-COE(山形大学先進的研究拠点)形成による、本学が世界をリードする研究への重点支援を行います。
- ◎教員が研究に専念できる環境を構築するとともに、産学官連携推進本部及びオープンイノベーション推進本部による申請サポート及び研究プロジェクト伴走支援等を実施します。

評価指標	R4年度 達成目標
YU-COEにおける外部資金獲得額	8.3億円
Top10論文数	55編

No.21 本格的な産学官連携の推進(第4期中期計画9-1)

飯塚理事

- ◎基礎から実用化にまたがる産学官連携を戦略的かつ持続的に推進するために、間接経費等を活用して研究マネジメント体制を強化する研究戦略を策定・実行し、評価検証を行います。
- ◎社会変革につながるイノベーションを加速させるために、ビジョン策定とその実現に向けた共創の場の形成やYU-COEの研究推進による地域及び産学官連携を推進します。
- ◎成果の社会実装を目指した研究開発を推進するために、研究開発コンソーシアムの設置や大型共同研究の実施により、安定した運営体制を整備します。

評価指標	R4年度 達成目標
共同研究(非競争領域)受入件数	350件
共同研究(競争領域)受入額	3.0億円

- ◎イノベーションを起こす人材育成機能を強化するために、アントレプレナーシップ開発センターを設置し、アントレプレナー(起業家)人材を育成します。
- ◎ベンチャー企業へのスタートアップ機能を強化するために、技術移転・ベンチャー創出支援及びベンチャー認定制度を構築し、大学発ベンチャー企業の新規立ち上げを支援します。
- ◎知財活用機能の強化及び社会課題解決に繋がる研究成果の社会実装を推進するために、現の特許の整理とその活用戦略を実施します。

評価指標	R4年度 達成目標
大学発ベンチャー企業立ち上げ件数	新規1件
実施許諾特許件数(国内・海外権利数)	50件

- ◎分野をまたいだ研究者が有機的に集結し成長する総合知の研究コミュニティを創出するために、本年度は、若手研究者が情報交換できる場の設置と異分野融合可能な研究グループの発掘・認定を進めることで、YU-COE等の既存制度との連携によるエコシステムを構築します。

社会共創の行動計画

〈ビジョン〉

山形大学は「コモンズ」でつながる地域の人々・組織と共に、幸福社会の活力となる多様な人材と地域に根ざした新たな価値を創出し、頼れる知のパートナーとして、地域の持続的発展を支える社会基盤となります。

- ◎山形県内の産官学金医の連携により、新たに「やまがた社会共創プラットフォーム(仮称)」を設置し、山形県内の様々な課題克服に向けた活動を開始します。
- ◎大学コンソーシアムやまがたの機能高度化に向け、これまでの活動の自己点検・評価及びニーズ調査を行います。
- ◎山形県国際交流人材育成協議会の機能高度化のために、内部組織の運営体制の見直しを行います。

- ◎全学の社会共創活動を効率的に把握し、可視化する仕組みを構築します。
- ◎新たに設置する地域共創STEAM教育推進センターや学内各部局において、初等中等教育関係機関と連携した教育プログラムを積極的に実施します。

評価指標	R4年度 達成目標
小中高校生対象の教育プログラム開講数	140件

No.26 地域価値創出の中核となる事業の推進(第4期中期計画1-3)

飯塚理事

- ◎地域産業、地方自治体等とのネットワークを強化するために、地域へのコーディネート業務の現状ヒアリングを行い、必要に応じて各キャンパスへコーディネーターを配置します。
- ◎地域資源の価値化につながる連携事業を実施して地域の活力を高めるために、地域産業・地方自治体等へのエクステンションサービスを積極的に提供するとともに、共同研究、受託研究等及び協定締結の増加を目指します。

評価指標	R4年度 達成目標
地域産業との共同研究、受託研究等件数	100件
地方自治体等との連携事業(協定・受託研究等)実施自治体数	18市町村

No.27 【附属病院】高度先進医療の提供(第4期中期計画11-1)

根本理事

- ◎東日本重粒子センターの本格稼働により、治療患者数の増加を目指します。
- ◎ロボット手術、ハイブリッド手術、低侵襲デバイス治療等の低侵襲治療、重症心不全・呼吸不全の治療を一層推進します。
- ◎オーダーメイド型医療の推進に向けた、がん遺伝子パネル検査を一層推進します。

評価指標	R4年度 達成目標
重粒子線治療患者数	300人
先進医療及び低侵襲治療患者数	225人
がん遺伝子パネル検査実施	140件

No.28 【附属病院】地域と連携した医療人の養成(第4期中期計画11-2)

根本理事

- ◎卒後臨床教育センター及び蔵王協議会が連携して、卒後臨床研修医のマッチング及び専門医の養成数の増加を目指します。また、医師の県内定着を目指します。
- ◎学内及び学外の医療人が連携したクリニカルアナトミートレーニングを実施するためのセンターを設置します。

評価指標	R4年度 達成目標
卒後研修実施数	・研修医マッチング実施 50人 ・基本領域専門医の養成 46人
山形県内医療機関勤務医における山形大学出身者割合	65%以上
山形県内開業医の山形大学出身者割合	1%増

No.29 YU empowering with SDGsの加速(地域の課題解決のための独自の計画)

林田副学長

- ◎地域社会の持続的発展に貢献するため、学内外のempower!を加速し、本学の「つなぐちから」を強化します。

評価指標	R4年度 達成目標
YU-SDGsパートナー数	令和3年度比1.5倍増
地方自治体との連携事業数(ローカルSDGsのempower!)	2件以上
YU-SDGsカフェ(一般対象)の開催数	5回以上

経営の行動計画

〈ビジョン〉

透明性の高い経営で、社会からの信頼と期待に応え、ステークホルダーが積極的に参画する戦略的経営を推進します。地域の人々がつながり、活動する「コモンズ」として、地域にとって不可欠の存在となる大学を目指します。

No.30 法令と社会規範を遵守し、ハラスメントの無いキャンパスの創成 (教職員の倫理観醸成のための独自の計画)

花輪理事、飯塚理事
根本理事、羽鳥副学長

- ◎社会規範を遵守し、ハラスメントの無いキャンパスとするため、全教職員の高い倫理観を醸成するための研修を行うとともに、未然防止の仕組みと組織体制を強化整備します。
- ◎研究不正・研究費不正を根絶するための研修を全教職員へ行うとともに、再発防止に向けて既存制度の見直しを行い、取り組みを強化します。

No.31 内部統制機能の実質化(第4期中期計画12-1)

花輪理事

- ◎山形大学内部統制に係る規程に基づき、モニタリングの実施を行います。また、その結果を経営協議会と共有し、経営協議会から出された意見を基に業務運営の改善を行います。
- ◎内部統制に係る知識、意識の向上のため、全教職員を対象とした研修を実施します。
- ◎大学の戦略的重要事項について、迅速かつ効率的に意思決定するために戦略本部を設置します。また、全学的教育研究組織について、機能の整理・組織化及び運営の効率化を図り、教育研究のアクティビティの活性化・高度化に資するため、既存の組織の機構化を行います。

評価指標	R4年度 達成目標
モニタリング報告に対する経営協議会からの意見への着手率	100%
内部統制に係る知識、意識の向上に資する研修の開催件数、受講率	・開催件数 年1回 ・受講率 100%

No.32 学内外の知見を法人経営に活かす取組(第4期中期計画12-2)

花輪理事

- ◎学外の専門人材や事務職員が学長、理事・副学長の特別補佐等に就くことができるようにするための規程を整備し、適任者を学長、理事・副学長の特別補佐に任命します。
- ◎学外有識者を含む経営協議会、顧問会議及び学内のステークホルダー(学生、キャンパス執行部)との情報交換会等を開催し、その中で出た助言に基づき業務運営の改善を行います。

評価指標	R4年度 達成目標
学外の専門人材や事務職員の適任者を理事・副学長特別補佐等に登用し、その人材を活用した取組件数	2件
学外有識者及びステークホルダー等の助言に基づく改善	3件

No.33 施設マネジメントの機能強化(第4期中期計画13-1)**継続理事**

- ◎キャンパスに求められる価値の多様性に戦略的かつスピーディに対応し、全学的な施設マネジメントの更なる推進を図るため、施設情報交換会を各キャンパスと実施し、整備要望の確認、計画等のフォローアップ及び施設に係る自己点検・評価を実施します。
- ◎令和7年度のキャンパスマスタープラン再構築に向け、骨格となる理念や整備活用方針の見直しを行います。
- ◎環境負荷低減(省エネルギー等)に配慮した施設整備を実施するとともに、次年度の整備方針・計画を策定します。また、特にエネルギー使用が多いキャンパスからエネルギー使用実態の検証を行います。

評価指標	R4年度 達成目標
省エネ法に基づくベンチマーク指標	0.788以下

No.34 地域を活性化する公共財としての大学資産活用(第4期中期計画13-2)**継続理事**

- ◎地域社会と共創するスペースの整備や、地域へ開放するスペースの拡大に向け、学内スペースの確保、整備等を開始します。
- ◎地域を活性化する公共財として大学の資産を有効活用するための計画の策定に向けて、研究スペースの再配分に関する現状調査及び全施設(土地・建物)のトリアージを進めていきます。

No.35 安定的な財務基盤の確立(第4期中期計画14-1)**根本理事**

- ◎補助金等多様な外部資金情報及びその獲得に向けた全学の出組状況等について情報の共有化を行う、概算要求事項の検討早期化に取り組む等、戦略企画室等との連携を強化します。
- ◎財源の多元化に向け、クラウドファンディングやネーミングライツ、ふるさと納税等の検討を行い、実施可能なものから順次取組を開始します。
- ◎医学部附属病院において、経営改善WGの出組を強化し、戦略的な予算配分、人員配置を実施し、過去の資源配分の効果の検証とあわせてPDCAを推進します。

評価指標	R4年度 達成目標
財産貸付料収入	3億2千万円以上

No.36 学内資源配分の最適化(第4期中期計画14-2)**根本理事**

- ◎令和5年度人事に係る教員ポイントに関するキャンパス長との対話を実施し、キャンパス毎の状況に応じた令和5年度の戦略的教員配置を行います。また、附属病院の機能を強化するために、病院予算等を財源とした教員雇用を推進します。
- ◎教育・研究事業における投資コスト分析を行い、教員ポイント及び予算配分の最適化を行います。
- ◎本学独自の自己点検・評価制度である「キャンパス経営力評価」について、各キャンパスにおけるプロジェクトの進捗状況及び指標達成度等の評価結果を踏まえ、成果に応じた予算配分を行います。

No.37 自己点検・評価の法人経営への活用(第4期中期計画15-1)**花輪理事**

- ◎山形大学内部質保証に関する指針に基づく「学生受入」「学生支援」等の自己点検・評価をルーブリックに基づき実施し、その結果を公表します。
- ◎キャンパス経営力評価を引き続き実施し、評価結果を元にインセンティブ経費の配分に反映させます。
- ◎令和4年度行動計画について半期毎に進捗状況を確認し、行動計画の着実な履行につなげるとともに、年度末の進捗状況をホームページで公開します。

No.38 ステークホルダーとの対話の推進(第4期中期計画15-2)

矢作理事、花輪理事

- ◎教育研究の成果や社会貢献の取組を積極的に広報発信するために、統合報告書を作成・公表します。
- ◎ステークホルダーと双方向に対話する機会を設けるほか、学生アンケートにおける意見聴取及び大学広報誌におけるアンケートの導入により、ステークホルダーからの意見聴取の機会を増加させます。さらに、聴取した意見を反映した新たな取組を実施します。
- ◎大学ホームページの内容充実に向けて、現行ホームページの分析・検証・リニューアルを行います。また、学長定例会見や動画・SNS等の複数の媒体を用いて継続的な情報発信を行います。

評価指標	R4年度 達成目標
プレスリリース発信件数	230件
ステークホルダーから広く意見を聴取する仕組み	新たな取組2件

No.39 全学一丸となったデジタルトランスフォーメーションの推進(第4期中期計画16-1)

矢作理事

- ◎教育強化のため、オンデマンドコンテンツ、バーチャルフィールドワークコンテンツの開発を行います。
- ◎研究力の強化に向けて、新たな実験機器共同利用システム及び研究者用学内ポータルサイトを導入します(運用開始は令和5年度)。
- ◎迅速かつ効率的な業務運営体制を整備するため、オンライン申請システム、RPAの導入、新たなグループウェアの導入等を実施します。また、DX人材育成のため、キャリアマップの見直しや研修会等を行います。

評価指標	R4年度 達成目標
山形大学デジタルトランスフォーメーション推進計画において実施した取組件数	4件

No.40 情報マネジメント体制の更なる強化(第4期中期計画16-2)

矢作理事

- ◎IT・セキュリティに関する知識を職員の重要な資質と位置づけるため、情報セキュリティ啓発活動(研修を含む)を実施します。
- ◎IT・セキュリティ知識を有する専門職員を育成するため、職員に対する国家試験「情報処理技術者試験」の受験補助を行います。
- ◎大学事務システムの最適化等の情報マネジメント体制を強化するために、全学的なデジタル化・情報基盤・情報セキュリティに関する組織整備を行います。また、令和4年度からの新たな「サイバーセキュリティ対策等基本計画」を策定します。

評価指標	R4年度 達成目標
全教職員対象に研修を含む情報セキュリティ啓発活動を毎年度実施及び研修における理解度	・啓発活動 3件以上 ・理解度 75%

No.41 真に働きやすい大学の実現(第4期中期計画16-3)

羽鳥副学長、大森副学長

- ◎テレワーク実施体制を促進するため、テレワーク用ノートPCの整備、学内関係規程の整備及び電子決裁の推進によるテレワーク対応可能業務の拡充を実施します。
- ◎ワークライフバランスを推進するため、計画年休の拡充等を行い、年次有給休暇の取得を促進します。
- ◎第2次山形大学男女共同参画基本計画(第2次)に基づく各種支援制度を着実に実施するとともに、各部局と連携した男女共同参画及びダイバーシティ推進に関する取組を、ワークライフバランスの視点から実施します。

評価指標	R4年度 達成目標
テレワーク実施率事務部	5%
年休取得日数	10日以上



編集発行
山形大学役員会



お問い合わせ先

山形大学 総務部 企画IR課
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
Tel: 023-628-4190 Fax: 023-628-4013
e-mail: yu-kikair@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



ホームページ

<https://www.yamagata-u.ac.jp>